

GOAL7 持続可能な環境の確保

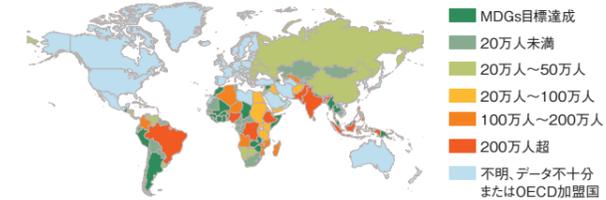
▶ターゲット

- A** 持続可能な開発の原則を各国の政策や戦略に反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
- B** 2010年までに生物多様性の損失を確実に減少させ、その後も継続的に減少させ続ける。
- C** 2015年までに安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減させる。
- D** 2020年までに最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する。

進捗状況

- ◎195カ国がオゾン層を破壊する物質の消費量 97%削減(1986～2007年)
- ◎11億人が清潔なトイレを利用できるように(1990～2006年)
- △絶滅危惧種は2008年も増加。全世界で毎年約1,300ヘクタールの森林が消失
- △清潔なトイレを利用できない人 25億人(2006年)

2006年から2015年までに安全な飲料水源を必要とする人々



JICAの主な協力

- ・48カ国で給水施設建設。2,800万人が安全な水を飲めるように
 - ・井戸管理者や水道技術者など13,000人以上を育成
 - ・食事前の手洗いやトイレの普及など衛生的な生活習慣を指導
 - ・1,400万ヘクタールで森林保全活動、280万ヘクタールを植林
 - ・森林分野の行政官、地域住民約39万人に研修
 - ・29カ国で大気汚染、水質汚濁対策、下水道整備、廃棄物管理の政策支援
 - ・7カ国で日本の技術を利用した廃棄物処理場を整備
 - ・温室効果ガスの排出量を抑制し、大気中の濃度の緩和に取り組む途上国の支援(緩和策)
 - ・気候変動の影響に脆弱な途上国の負荷を軽減するための支援(適応策)
- 事例はp14 アフリカ「人々に命の水を」へ。

GOAL8 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

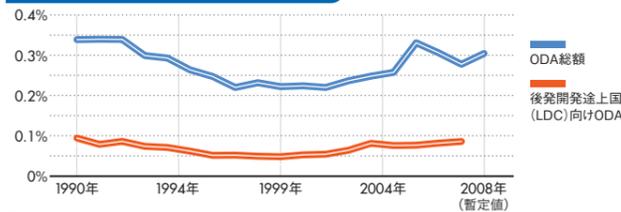
▶ターゲット

- A** 開放的でルールに基づいた予測可能で差別のない貿易・金融システムの構築を推進する。
- B** 後発開発途上国の特別なニーズに取り組む(輸入品の無関税、債務救済、貧困削減に積極的な国への寛大なODA供与など)。
- C** 内陸国および小島しょ開発途上国の特別なニーズに取り組む。
- D** 国内・国際的な措置を通じ、途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。
- E** 製薬会社と協力し、途上国で人々が必須の医薬品を安価に入手・利用できるようにする。
- F** 民間セクターと協力し、特に情報通信における新技術による利益が得られるようにする。

進捗状況

- ◎2008年ODA支出純額 過去最高の1,198億ドル
- ◎途上国→先進国への輸出 無税品の割合2007年に大きく上昇
- ◎全世界のインターネット利用者:14億人 携帯電話の加入者:20億人(2007年)
- △2008年ODAの対GNI比 0.3% (目標は0.7%)
- △金融危機により途上国の輸出収入減少へと逆転(2008年)
- △インターネット利用者 先進国64%、途上国13%(2007年)

世界全体のODAの対GNI比(総額とLDC向け)



JICAの主な協力

- ・貿易・投資促進のための制度整備、産業発展のためのインフラ整備
- ・ガバナンス改善に向けた法整備、民主制度の構築
- ・デジタル・デバイド(情報格差)是正のためのITの質と量の向上、通信基盤整備、人材育成など

GOAL5 妊産婦の健康状態の改善

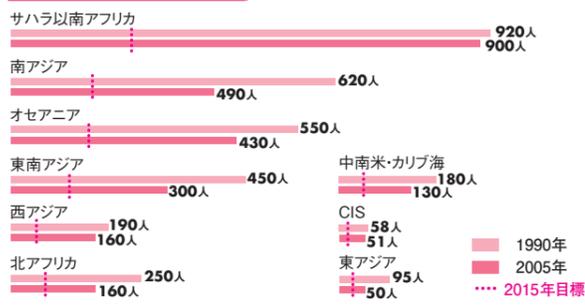
▶ターゲット

- A** 2015年までに妊産婦の死亡率を4分の1に削減させる。
- B** 2015年までにリプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)への普遍的アクセスを実現する。

進捗状況

- ◎途上国で医師・看護師・助産師による分娩 1990年53%→2007年61% 増加
- △妊産婦死亡率(出生10万人当たり) 1990年480人→2005年450人 減少したが目標(120人)には程遠い
- △出産前検診を最低1回受ける妊産婦は増加(1990年以降)。しかし、推奨される4回以上受ける妊産婦はサハラ以南アフリカと南アジアで50%を下回る

妊産婦死亡率(出生10万人当たり)



JICAの主な協力

- ・32カ国で、リプロダクティブ・ヘルス、地域母子保健活動
 - ・インドネシアで母子手帳を300万冊配布(妊婦数の6割)
- 事例はp12 バングラデシュ「地域ぐるみでお母さんと赤ちゃんを守る」へ。

GOAL6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止

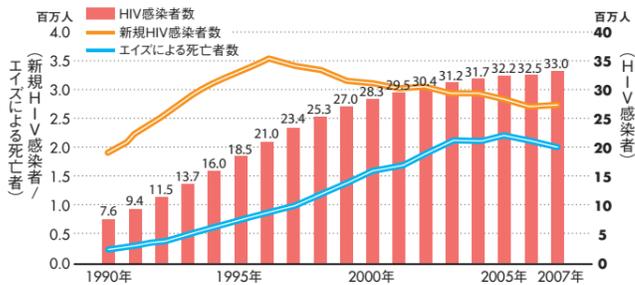
▶ターゲット

- A** 2015年までにHIV/エイズのまん延を阻止し、その後減少させる。
- B** 2010年までにHIV/エイズの治療への普遍的アクセスを実現する。
- C** 2015年までにマラリアおよびその他の主要な疾病のまん延を阻止し、その後減少させる。

進捗状況

- ◎新規HIV感染者 1996年350万人→2008年270万人 減少
- 低・中所得国の抗レトロウイルス薬治療者 2003～08年で10倍に増加
- ◎マラリアによる死亡者(2006年) 100万人のうち95%がサハラ以南アフリカ
- サハラ以南アフリカの子どもの蚊帳利用率 2000年2%→2006年20% 上昇
- △エイズ治療が必要な人のうち69%は治療薬を利用できていない(2007年)
- △新規結核感染者 2004年以降減少
- しかし、サハラ以南アフリカとCIS諸国 1990年代以降増加

世界のHIV感染者数、新規HIV感染者数、エイズによる死亡者数



JICAの主な協力

- ・30カ国で、新規HIV感染の予防啓発・検査・カウンセリング、治療薬提供システムの整備
- ・11カ国で、結核の検査・診断、治療・予防体制の強化
- ・18カ国に蚊帳を配布
- ・中米5カ国でシャーガス病対策。約46万家屋に殺虫剤散布、約230万人の感染を予防

特集 2015 約束の年 8つの宿題

進捗状況

- ◎目標に近づいている
- △努力が必要

GOAL3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

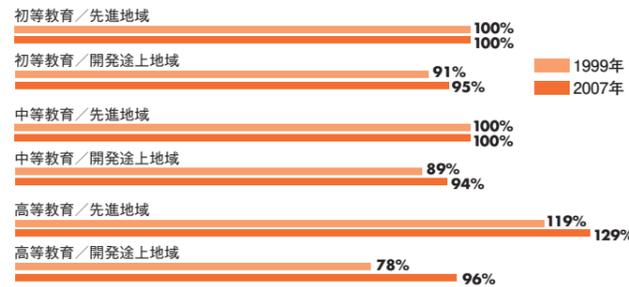
▶ターゲット

2005年までに初等・中等教育で男女格差を解消し、2015年までに全教育レベルで男女格差を解消する。

進捗状況

- ◎女子の初等教育就学率(男子100人に対し) 1990年91人→2007年95人 増加
- ◎南アジアの女性の国会議員 2000年7%→2009年17% 増加
- △2005年までの目標は未達成。特に中等教育で男女格差が顕著
- △女性の国会議員はわずか17%。大洋州、北アフリカ、西アジアは10%以下(2009年)

初等、中等、高等教育での就学女子の割合



JICAの主な協力

- ・ジェンダー配慮の視点に立った制度づくり
- ・女性のエンパワーメント推進
- ・ジェンダー視点に基づいた基礎データの収集・分類・分析

GOAL4 幼児死亡率の削減

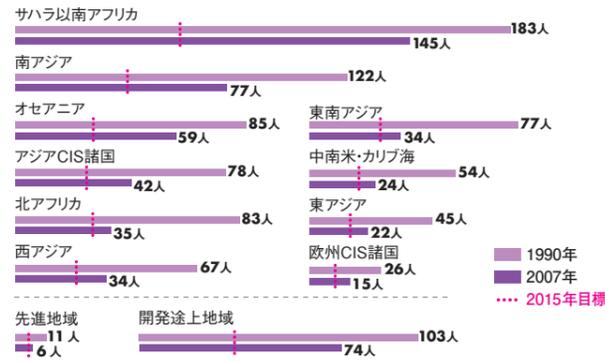
▶ターゲット

2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の1に削減させる。

進捗状況

- ◎5歳未満児死亡 1990年1,260万人→2008年900万人 減少
- 特に北アフリカ、東南アジア、中南米・カリブ海は大きく進展
- ◎はしか関連の死亡者 2000年75万人→2007年19万7,000人 減少
- △サハラ以南アフリカ 7人に1人が5歳未満で命を失っている(2007年)

5歳未満児死亡率(出生1,000人に対し)



JICAの主な協力

- ・64カ国にワクチン5.8億回分を供与、54カ国1,391カ所施設を改善
 - ・14カ国で予防接種事業の管理能力向上に貢献
- 事例はp12 バングラデシュ「地域ぐるみでお母さんと赤ちゃんを守る」へ。

MDGs、達成期限まであと5年

—残された課題とJICAの取り組み—

ミレニアム開発目標(MDGs)の8つのゴールを目指し、世界は今日のような状況にあるのだろうか。進捗状況と目標達成に向けたJICAの取り組みを紹介。

参考文献:「国連ミレニアム開発目標報告2009」ほか

GOAL1 極度の貧困と飢餓の撲滅

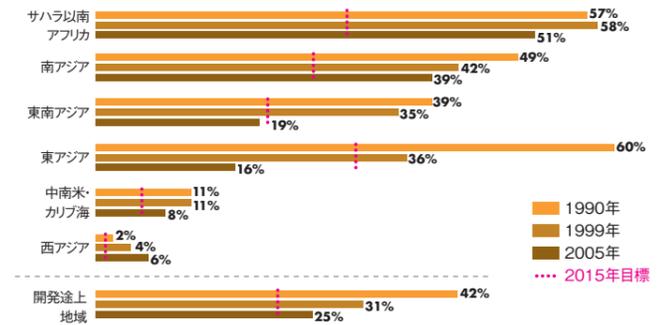
▶ターゲット

- A** 2015年までに1日の収入が1ドル未満の人口比率を半減させる。
- B** 女性、若者を含むすべての人々に、完全で生産的な雇用、適切な仕事の提供を実現する。
- C** 2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。

進捗状況

- ◎1日1.25ドル未満で生活する人 1990年42%→2005年25% 減少
- △サハラ以南アフリカの貧困層 1億人増加(1990～2005年)
- △途上国で職が安定しない人 7,700万人増大(2007～08年)
- △飢餓率が最も高いサハラ以南アフリカ 人口の29%が栄養不良(2008年)

1日1.25ドル未満で暮らす人々の割合



JICAの主な協力

- ・JICAの4つの使命の一つが「公正な成長と貧困削減」。貧困対策の視点から事業展開
 - ・食料の生産・増産、安定した食料供給、農村振興などを支援
 - ・インドネシアで37万ヘクタールの灌漑整備と技術支援。
 - コメの自給率と生産量 1970年1,930万トン→2008年6,025万トン 増加
- 事例はp8 インドネシア「貧困削減に住民の力を」へ。

GOAL2 普遍的初等教育の達成

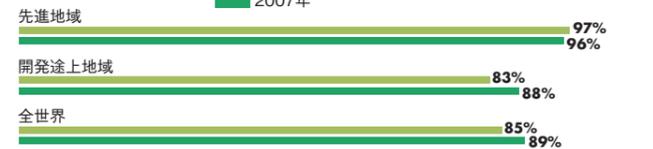
▶ターゲット

2015年までにすべての子どもたちが男女の区別なく、初等教育の全課程を修了する。

進捗状況

- ◎最も深刻なサハラ以南アフリカ 2000年58%→07年74% 増加
- 南アジア 2000年79%→07年90% 増加
- △就学年齢の子どもの7,200万人が学校に通っていない
- うち約半数がサハラ以南アフリカ(2007年)
- △中途退学率は依然多くの国で高い
- 南アジアは非就学児童の3分の2が中退(2006年)

初等教育の就学率



JICAの主な協力

- ・47カ国で8,800の小中学校を整備、現在210万人の児童が学んでいる
- ・約20万人の教員を研修、教員用指導書も開発
- ・1万2,000校以上で学校運営を改善、200万人の児童に恩恵